

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

「もうぬげない」

ヨシタケシンスケ 著



「なんでそうなるの?」と思いつつ、笑いがこみあげてきます。

町立 鷹巣図書館
TEL0996-86-1111

町立 指江図書館
TEL0996-88-6500



人のためにつくす心やさしい女性や自分を信じて夢をおいかける女性のお話をかわいいイラストとともに紹介しています。

「おんなのこのでんきえほん」
堀米 薫 著

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungo
ながしまぶんげい

明神俳句会

軍服の父の遺影や山眠る
山粧ふポスト佇む港町
山眠る木挽の法被返し縫ひ
沐浴の嬰ゆったりと冬ぬくし
生薬の効き目は遅々と山粧ふ
島棲みの空の広さや干蒲団
蒲団より抜け出す勇氣万歩計
山眠る起こさぬように子守唄
山眠る流れる水の気配かな
城跡の紅葉色つき堀に舞う
大根を干して農家の冬支度

淵脇 護
関 佳代美
筑前 初市
山寄加代子
迫口 君代
二階堂妙子
大堂 早苗
二階堂恵子
大堂 光幸
坂口 静子
大堂 正弘

創生短歌会

藪の中移る小鳥の声のみが聞え来るなり馬鈴薯畑
つまづきて畳の上に転がりぬ次第に独りおかしき
笑い
宮元 司
帰る家あるのか鳥いつまでも夕べの空をただよい
飛べり
石原百合子
向うより逆行線に近づきぬ我が名を呼べる人はど
なたか
野村 益信
枇杷の木がいつか育てて花咲かす隣の家の種子こ
ぼれ来て
村上 義彦
死期近き母に一夜をつき添いて尿を取りたり共共
あわれ
大塚 洋子
間引き菜を胡麻にあえんとこの夕べ厨にわれの佇
ちているなり
山下 学

長島短歌会

雨止みて真向こふ山に湯煙と見紛ふほどに霧のま
いたつ 濱田美代子
年末の歌会に亡友がもてなしし手打蕎麦の味忘れ
難しも 浜畑 松枝
獲物追ふ勢子の奇声に驚けど猪を仕留めし犬静か
なり 松元 睦子
一四歳で母の着物にてもんべ縫いし今吾八十路を
支えられ生く 市尾 操
煌こうと光る明星いだくごと上弦の月かかる暁
岩下 ち江
午睡の夢囀る小鳥に覚まさるる麓の住家は穩やか
なりぬ 岩下 房代
北風を待ちまちて太き甘藷切るこっば餅好む病む
人思ひ 榎平 頼子
鶏頭が火炎の形に咲き続く石組み花壇わが鳥道辺
米尾 和子
花燃ゆのテレビに映りし養蚕に吾も励みし若き日
の顯つ 坂之下典子
赤色を愛でぬし亡夫へ貰ひたる赤実数多の繭の木
を活く 中山タマエ

一般作品

短歌

牛深へ連絡船はゆつたりと青の海原白が分け入る
小林 貢
小さくも逞ましくあり胡麻しじみ蜘蛛の巣くぐり
悠然と舞う 小林 繁
わが国のあたたかき人それぞれの食卓かこみなご
みてゆかん 中仮屋辰子
幼きに登り遊びし銀杏の樹輪切り座卓となりて届
きたる 母木 良平
〔俳句〕
日を浴びて雪の富士あり通過駅 桐野 眞実